ノーリフティングケア実践報告

社会福祉法人柏友会

特別養護老人ホーム桑寿園

○施設紹介

特別養護老人ホーム
桑寿園

サービス対象者数　８０名
（１０名はショートステイ）

平均介護度　４．１

職員

管理者	１名	
生活相談員	２名	
介護支援専門員	２名	
介護員	２６名	
機能訓練指導員	１名	
栄養士	２名	
調理員	６名	
事務職員	３名	計４３名

○法人概略

平成 5年 7月15日　社会福祉法人柏友会　設立
平成 6年 4月 1日　特別養護老人ホーム桑寿園
短期入所生活介護桑寿園
柏村在宅介護支援センター
平成 9年 4月 1日　老人居宅介護等事業
平成12年 4月 1日　居宅介護支援事業所桑寿園
訪問介護桑寿園
平成12年 5月 1日　デイサービスセンターかしわ
訪問入浴かしわ
平成14年 2月 1日　グループホーム桑寿園
平成15年 7月 1日　グループホーム桑寿園増床
平成17年 3月 1日　つがる市柏在宅介護支援センター
平成18年 5月 1日　デイサービスセンターはなさき
平成19年 7月 1日　グループホームふくうら
平成20年10月 1日　有料老人ホームおのえ荘
平成22年 4月 1日　かしわ保育園
平成23年12月15日　特別養護老人ホームおのえ荘
平成25年 4月 1日　デイサービスセンターおのえ荘
かしわあっぷる保育園
サービス付き高齢者向け住宅 おのえ荘
平成26年 6月 1日　グループホームからたけ
特別養護老人ホーム桑寿園増床
平成27年 4月 1日　幼保連携型認定かしわこども園
保育所型認定かしわあっぷるこども園
平成29年 7月 1日　サービス付き高齢者向け
住宅ニュータウン柏
企業主導型保育所
かしわマルベリー保育園
平成30年 4月 1日　小規模多機能デイサービスセンター
りんごの郷
グループホーム静香荘

○開始時の状況

・腰痛保持者(２０２０年３月実施のアンケート結果)

常に痛い、時々痛い・・・・・・４１％

痛みはないが、疲れやすい・・・１１％

以前、痛めたことがある・・・・２６％

↓

７８％が腰痛、腰の疲れを抱えている。

腰痛に対する取り組み

・年２回の健康診断時の腰痛健診

・その他、腰痛に関する対応は個人任せであり、特に取り組みは行っていない。

○開始時の状況

◎福祉用具の活用

・床走行リフト１台、スライディングボード１枚、シート１枚あり。
ストレッチャー浴のみボード、シート使用、他は使用はしていない。

・移乗は利用者の状態に関わらず、抱え上げが基本、移乗が１人では厳しい場合、２名で抱え上げる介助。

桑寿園
ノーリフティングケアの取り組み

1、ノーリフティングケア組織体制

2、教育体制、研修体制

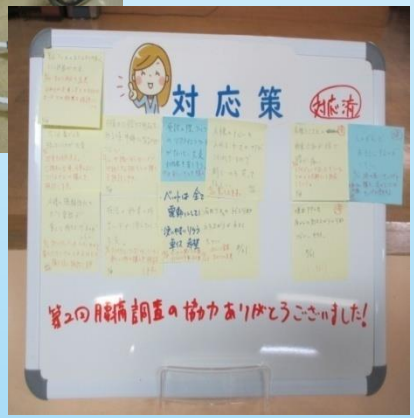
3、健康管理体制

4、リスクマネジメント体制

5、アセスメント、プランニング体制

6、福祉用具管理体制

7、具体的な変化



柏友会の基本的な介護の考え方

・失礼、不快のない接遇

・危険の予測を察知

・利用者、職員共に負担の少ない介助

この取り組みの一つとして、
ノーリフティングケアを推進！！

1、ノーリフティングケア組織体制

2020年4月
ノーリフティング委員会発足
↓
2020年7月
月に一回、職員会議の際にノーリフティングの話し合いを実施。現在の取り組み状況や、各部署で挙がったリスクを共有。
↓
2021年1月
介護の各部会にて、ノーリフティングに関する研修を発案、資料を作成。今後、研修を行っていく予定。

統括マネージャー
成田　和代(副園長)
伊藤　伸哉(生活相談員)

職員の健康管理担当
成田　美江(看護師)
野呂　研一(チーフ介護員)

ノーリフティング委員会

教育担当
平田　舞(介護員)

個別アセスメント プランニング担当
奈良岡　環(介護支援専門員)

福祉用具計画、管理担当
佐々木　伸悟(サブリーダー)
木村　孔一(機能訓練指導員)

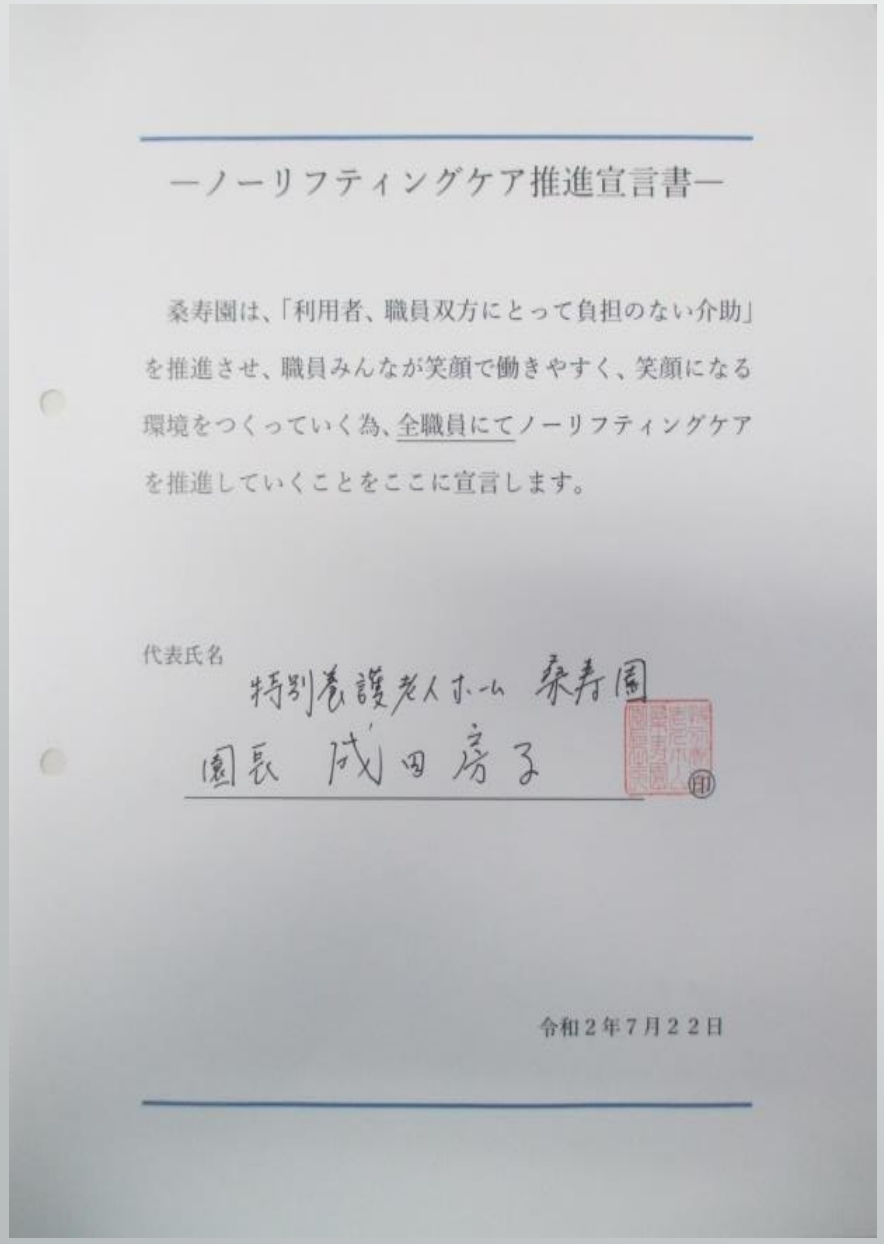
・リスクの抽出
・対応策の実行

・リスク対応策の発案、話し合い
・取り組み等の周知、技術指導

介護職員
- 環境部会
- 排泄部会
- 食事、レク部会
- 入浴部会

医務職員
厨房職員
事務職員

２、教育体制



―ノーリフティングケア推進宣言書―

桑寿園は、「利用者、職員双方にとって負担のない介助」を推進させ、職員みんなが笑顔で働きやすく、笑顔になる環境をつくっていく為、全職員にてノーリフティングケアを推進していくことをここに宣言します。

代表氏名
特別養護老人ホーム 桑寿園
園長 成田房子 ㊞

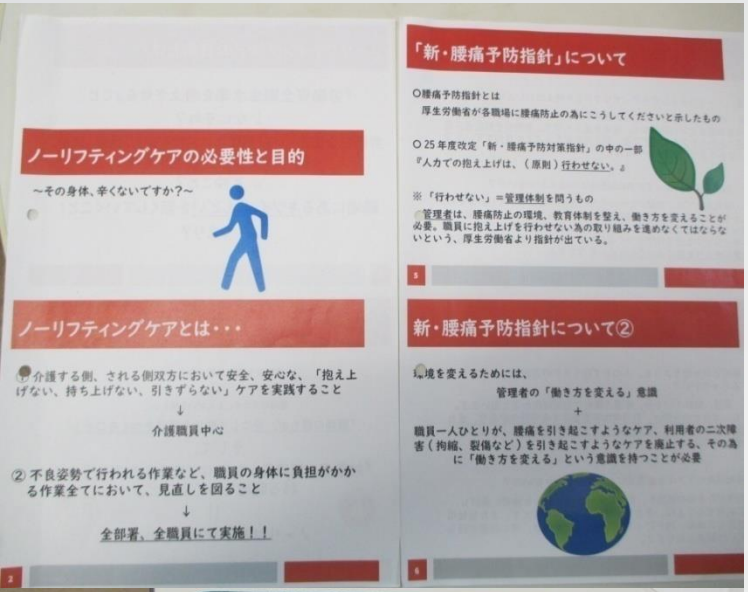
令和２年７月２２日

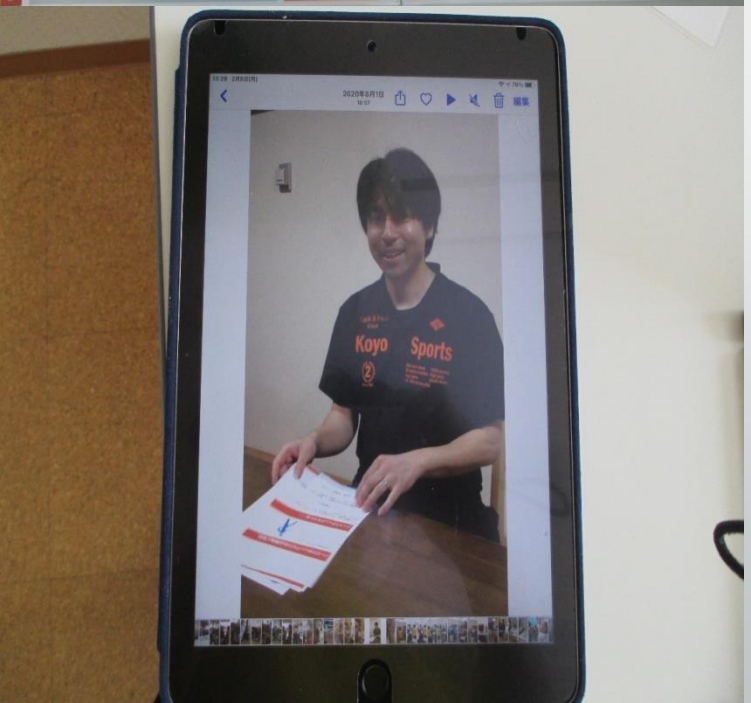
施設長による ノーリフティングケア 推進宣言(８月)

ノーリフティング委員会にて推進宣言書を作成。施設長に署名してもらい、ノーリフティングの取り組みを施設全体が、全職員が行っていくものであることを全職員に共有。

また、「利用者、職員双方にとって負担のない介護」、「職員が働きやすく、笑顔になる環境をつくっていく」という桑寿園におけるノーリフティングケアを行っていく目的を共有しています。

２、教育体制　(職員教育)



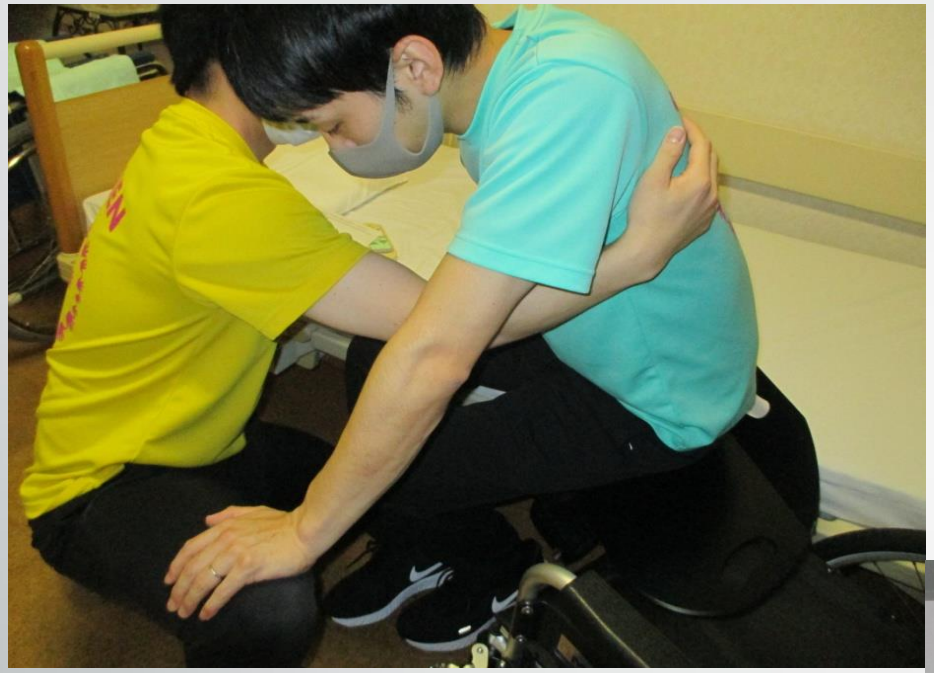


ノーリフティング実践マニュアル
STEP１　ノーリフトケアの必要性と理解
STEP２　自己管理　専門職としての意識、態度
STEP３　リスクマネジメント
STEP４　基本の動きのサポート
STEP５　福祉用具ケア

STEP１～STEP３に関しては、短期間で全職員に共有、理解してもらう為、資料を作成し配布、また、ノーリフティングケアの目的について動画作成し、職員に視聴してもらう。

理解の確認として、全職員に理解度チェックテストを行ってもらい、正答率１００％になるまで、再指導、再テスト行っていき、ＳＴＥＰ１～３まで全職員１００％達成。(９月)

、教育体制　(職員教育)



STEP４、STEP５に関しては、早番の休憩前の時間と、早番職員退勤後の時間外勤務を使用し、研修会を実施。(１５分～１時間)

研修、練習を行い、委員会メンバーにてチェックを行う。習得した職員から、利用者へのケアを実践。

研修した内容は、写真付きの資料を作成し、実際にケアを行う場所に設置。職員がいつでも見ることができる、確認できる環境づくりを行う。

２、教育体制　(新人教育)

入職後、導入教育実施の際に、同時にノーリフティングの目的、内容についての研修を実施。

実施後に理解度チェックテストを行ってもらい、理解度１００％になるまで、再指導、再テスト行う。(２週間以内)

３、健康管理体制

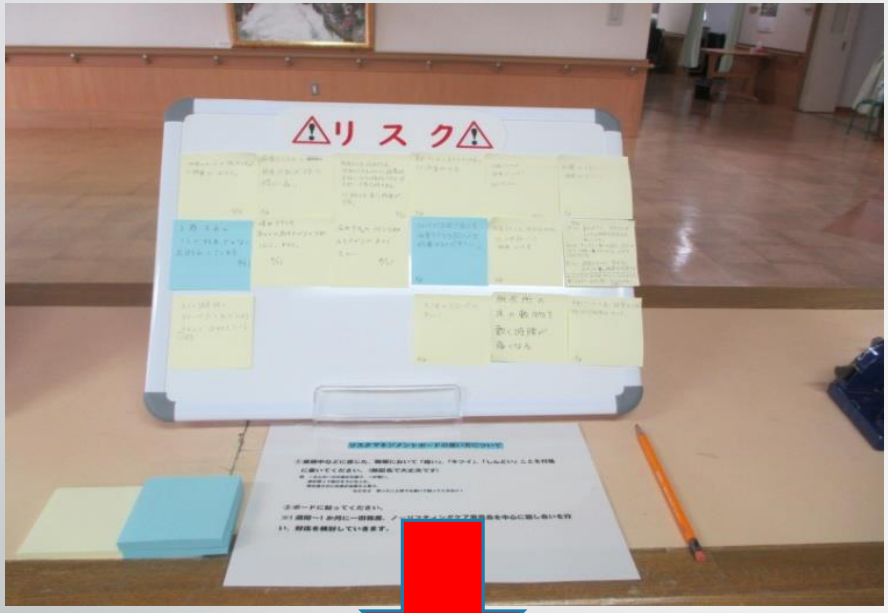
・年２回の健康診断の際の腰痛健診
・年２回の腰痛アンケートの実施
・腰痛アンケートにて「常に痛い」と回答があった職員には、管理者との個別面談実施(半年に１回)

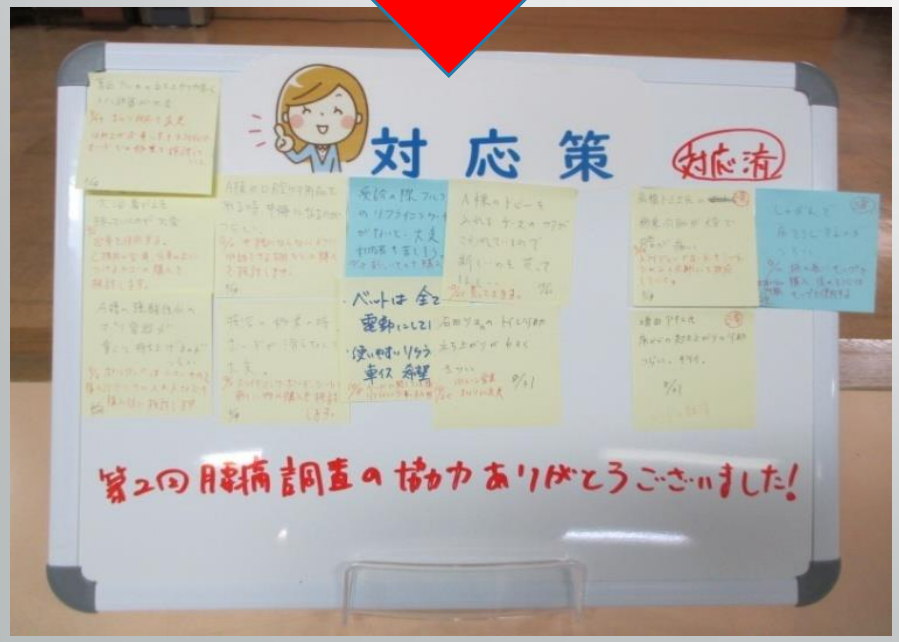
↓

業務内容の見直しや、所属部署の検討

・スリッパ履きを廃止(６月)
　足元を安定させる、またケガの防止の為、クロックスを含む踵が覆われていない履物を廃止とし、全職員、履物はシューズタイプのものに統一した。

４、リスクマネジメント体制(リスク抽出)





リスクマネジメントボード設置

(８月)

普段の業務で感じている「痛い」、「キツイ」、「しんどい」ことを付箋にて挙げてもらっている。そこで挙がったものを、ノーリフティング委員会、また、担当職員含め３，４名程度で話し合いをし、対応策を出していく。(２週～３週に１回のペース)

話し合いで挙がった対応策は、職員が確認できるように、付箋に回答として記入し、対応策ボードに張り出す。対応済みのものは分けて貼っている。

４、リスクマネジメント体制(リスク改善例)

床の掃除をする時に何度もかがんで、テーブルの下を拭かなければいけないので、大変だ。何とかならないか。

改善

食後にテーブルと床を拭いているのですが、床を拭く際、何回も中腰にならねばならない為、キツイとの意見があった為・・・

床掃除用モップを購入

テーブルの下を拭く際も、不良姿勢になることがなくなりました。

４、リスクマネジメント体制(リスク改善例)

食後の台拭きに使っている強酸性水のタンクが重く、持ち運ぶのがキツイ。毎日大変だ。

テーブル拭きの為、厨房から、毎日10リットルのタンクを運んでいましたが・・・

改善

4リットルのボトルへ変更。片手でも軽く持てるようになりました。

４、リスクマネジメント体制(リスク改善例)

感染症予防の為、職員の休憩室に飛沫防止の対策をした方が良いのではないか。

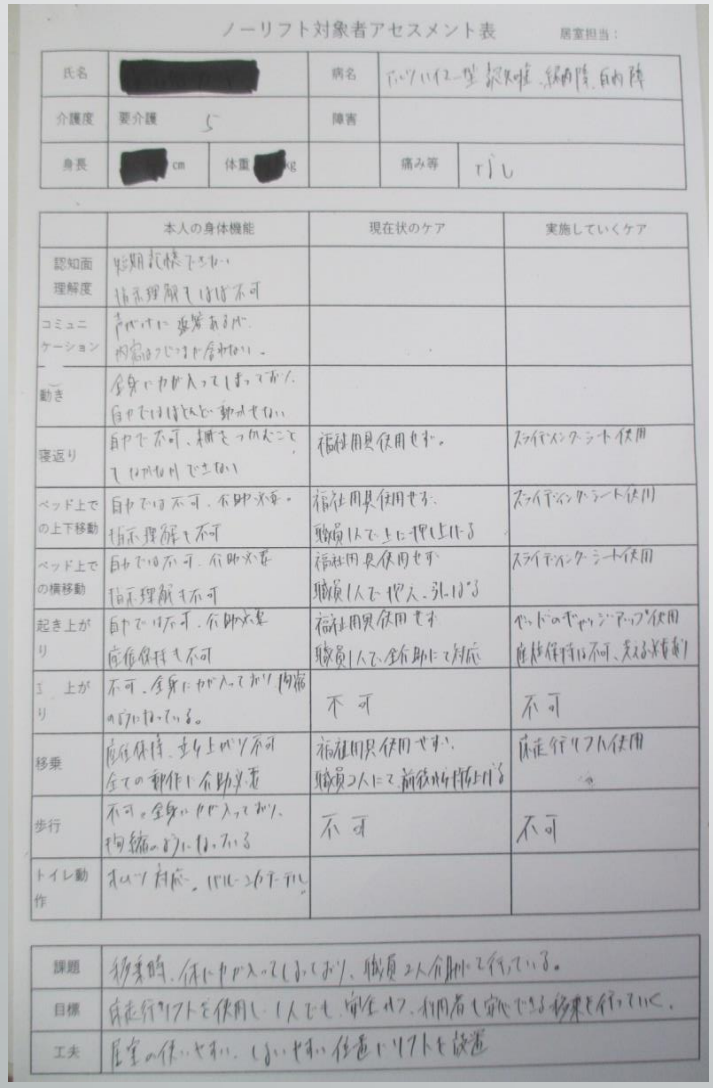
休憩室で向かい合って食事を食べている状態だった為・・・

改善

飛沫防止ボードを設置、毎日、休憩明けに消毒をしています。

ノーリフティングに関わることはもちろんノーリフティング以外でも、職員から活発に意見が出るようになった！！

5、アセスメント、プランニング体制(アセスメント)



ノーリフト対象者アセスメント表　居室担当：

氏名	[redacted]	病名	パーキンソン病 認知症 狭心症 自閉症
介護度	要介護 5	障害	
身長	[redacted] cm	体重 [redacted] kg	痛み等 なし

	本人の身体機能	現在状の ケア	実施していくケア
認知面 理解度	短期記憶できない 指示理解もほぼ不可		
コミュニケーション	声がでない 表情あるが 内容はつかめない。		
動き	全身に力が入ってしまっている。 自分では身体を動かせない		
寝返り	自力で不可。横をつかんでもなかなかできない	福祉用具使用せず。	スライディングシート使用
ベッド上での上下移動	自力では不可。介助必要。指示理解も不可	福祉用具使用せず。職員1人で上に押し上げる	スライディングシート使用
ベッド上での横移動	自力では不可。介助必要 指示理解も不可	福祉用具使用せず 職員1人で押入、引っぱる	スライディングシート使用
起き上がり	自力では不可。介助必要 座位保持も不可	福祉用具使用せず 職員1人で全介助にて対応	ベッドのギャッジアップ使用 座位保持は不可、支える必要あり
立上がり	不可。全身に力が入っており 拘縮の方になっている。	不可	不可
移乗	座位保持、立ち上がり不可 全ての動作に介助必要	福祉用具使用せず。職員2人にて前後から持ち上げる	座位保持リフト使用
歩行	不可。全身に力が入っており、拘縮の方になっている	不可	不可
トイレ動作	オムツ対応。ポータブルトイレ		

課題	移乗時、体に力が入ってしまっており、職員2人介助にて行っている。
目標	座位保持リフトを使用し1人でも安全かつ、利用者も安心できる移乗を行っていく。
工夫	座面の使いやすい、しまいやすい移乗リフトを選定

・ノーリフティング専用のアセスメントシートを作成

全利用者の現在、行っているケアをまとめ、そこから課題と目標を抽出し、今後、行っていくべきケアをまとめている。また、ここから必要な福祉用具も抽出している。

新規入居者が入所されたら作成、利用者の状態の変化がある毎に更新し、その他、状態に変化がない利用者のシートも６カ月(担当者会議毎)に一回、見直し、更新を図っていく。

アセスメントシート作成

アセスメントシート更新

→

課題抽出

必要福祉用具の把握

↓

介助方法の決定、実施、リスク分析

←

ケアの見直し
- **状態に変化があった時**
- **介助方法に問題がある時**
- **担当者会議時(6ヶ月)**

↑

５、アセスメント、プランニング体制(プランニング)

【ケアプランへの反映】

アセスメント、担当者会議で決まった内容をケアプランに反映。
また、職員全員が確認したかどうかを回覧表を使って確認

ケアプラン例

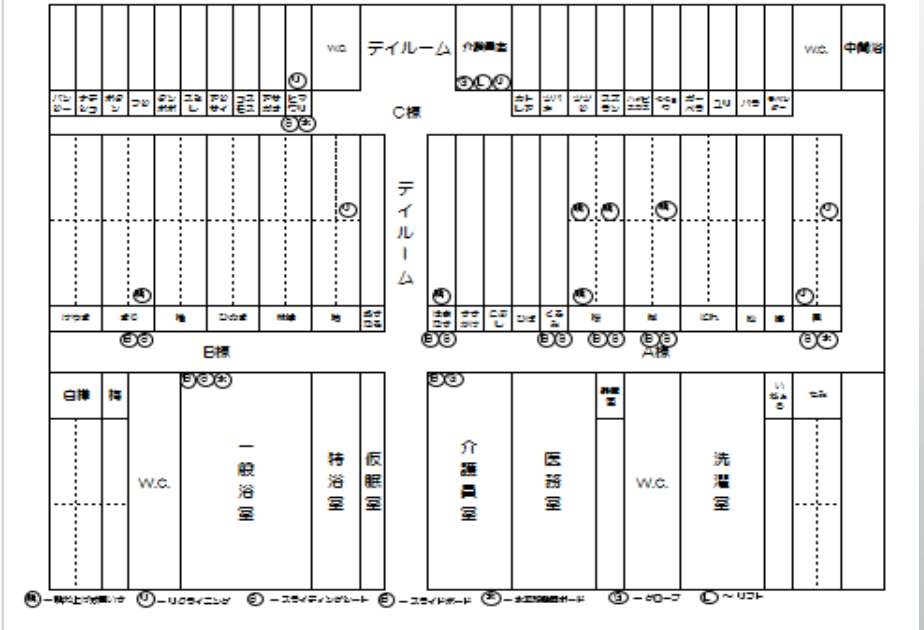
短期目標	（期間）	サービス内容
栄養バランスのとれた食事を3食食べることが出来る。	R 3/ 1/ 1 ～ R 3/ 6/30	a、本人の状態にあった形状（ゼリー粥＋ゼリー食1230kcalたんぱく質49g）を準備し、栄養バランスのとれた食事の提供をする。 b、温度に敏感なため、冷たいものや熱いものなど食事や飲み物の温度に注意して介助する。。 c、声がけしながら食事介助をし、飲み込みを促す。 d、食事時の姿勢に気をつけ、誤嚥防止していく。 e、口腔ケアを行う。
福祉用具を利用し、安楽に移乗できるよう介助する。	R 3/ 1/ 1 ～ R 3/ 6/30	a、福祉用具を使用し、移乗介助する。 b、安全に移乗できるよう注意点を周知する。 c、使用物品の管理。

回覧表を使って、必ず全員が確認したことを確認！！

回覧　　令和　年　月　日					
職員会議録	担当者会議録	事故報告書	苦情処理報告書	行事計画書	その他
佐々木恭子	佐々木伸悟	成田春彦	世永慧司	平田舞	長内真鈴
澤田翔太	秋田谷菜摘	坂崎洋平	野呂研一	花田都子	秋田隆寿
工藤鹿子	白取定男	台丸谷美恵子	八木橋美季	田中秀明	
山中美香子	成田泰子	木津千絵美	田中涼香	石川果奈	
澤田香寿美	高橋美穂	芹川絵里奈			
佐々木幸男	管理栄養士	機能訓練指導員	生活相談員	介護支援専門員	
成田（看護師）	中嶋（看護師）	安田（看護師）	柳引（看護師）	山崎（看護師）	

６、福祉用具管理体制

施設福祉用具管理番号	用具名	種類	付属品①		使用ユニット	購入日	使用年数	状態 状況	使用中	使用不能廃棄	修理中
173	スライドボード				A棟	R2.11.13	0年2ヶ月26日				
174	スライドボード				A棟	R2.11.13	0年2ヶ月26日				
175	スライドボード				A棟	R2.11.13	0年2ヶ月26日				
176	スライドボード				B棟	R2.11.13	0年2ヶ月26日				
177	スライディングシート	青			A棟	R2.9.21	0年4ヶ月18日				
178	スライディングシート	青			A棟	R2.9.21	0年4ヶ月18日				
179	スライディングシート	青			A棟	R2.9.21	0年4ヶ月18日				
180	スライディングシート	青			A棟	R2.9.21	0年4ヶ月18日				
181	スライディングシート	青			A棟	R2.9.21	0年4ヶ月18日				
182	水平移乗用ボード				A棟	R2.11.13	0年2ヶ月26日				
183	水平移乗用ボード				B棟	R2.11.13	0年2ヶ月26日				
184	水平移乗用ボード				風呂場	R2.11.13	0年2ヶ月26日				
185							121年1ヶ月8日				
186							121年1ヶ月8日				
187							121年1ヶ月8日				
188							121年1ヶ月8日				
189							121年1ヶ月8日				



福祉用具の管理台帳を作成

現在、施設にある福祉用具に関して、

- 何があるのか
- どこに置いているのか

新たに購入したものに関してはプラス

- いつ購入したものか

をまとめた台帳を作成。福祉用具を購入したり、福祉用具の位置を変える度に台帳に入力していく。６ヶ月に一度、確認し、現場とのズレを修正、福祉用具の消耗具合を確認していく。

７、具体的な変化(ケア)

【開始時】

福祉用具を使ったケア・・・０人

全体で全ての実施は困難の為、リスクマネジメントボードから出たリスクを優先的に、棟(グループ)を絞り、実施。

【現在】

ボードとスライディングシートを使った並行移動での移乗の利用者・・・３名

スライディングボードを使った移乗の利用者・・・６名

床走行式リフトを使用した移乗の利用者・・・１名

７、具体的な変化(ケア)

ボードとスライディングシートを
使った並行移動での移乗の利用者

スライディングボードを使った
移乗の利用者

７、具体的な変化(利用者)

・Ｓさん(女性９０歳　要介護度３)

・入所前は、立ち上がり可能で、トイレも一人で行っていた。

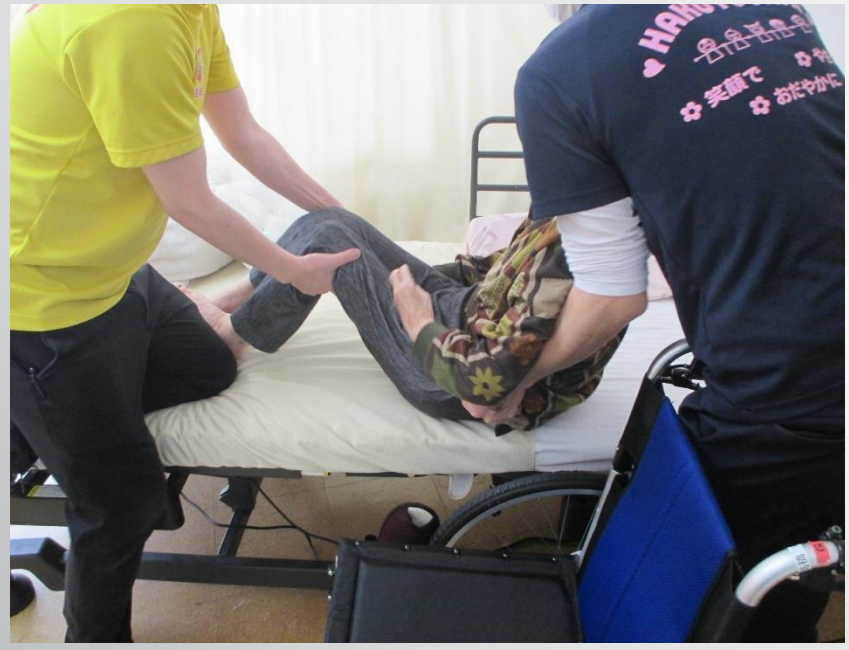
・入所後、足先の痛みあり、立ち上がりできなくなった。(受診結果は異常なし)

・両あばらに痛みの訴えあり、抱え上げの介助は困難。(受診結果は異常なし)

・尿意、便意あり、排泄はトイレでしたい。

７、具体的な変化(利用者)

・Ｓさん(女性９０歳　要介護度３)



・介助者一人が後ろから、ズボンのウエストを持ち、もう一人が足を持って、二人で持ち上げ、移乗する。

・トイレ誘導の際は、やむを得ず抱え上げて行う。その都度、痛みの訴えがある。

７、具体的な変化(利用者)

・Ｓさん(女性　９０歳　要介護度３)

【アセスメント開始】

課題

移乗時、トイレ誘導時に本人と介助者に大きく負担がかかっている。

アセスメントを行っていく中で、普段、プッシュアップでベッド上を移動していることに気づく。

↓

本人の腕の力を使って移動できるのでは？

７、具体的な変化(利用者)

・Ｓさん(女性９０歳　要介護度３)

【移乗用ボードを使用した移乗を開始】

ケア変更後の変化

・本人からの痛みの訴えがなくなった。

・本人が進んで離床を訴えるようになった。→離床時間の増加

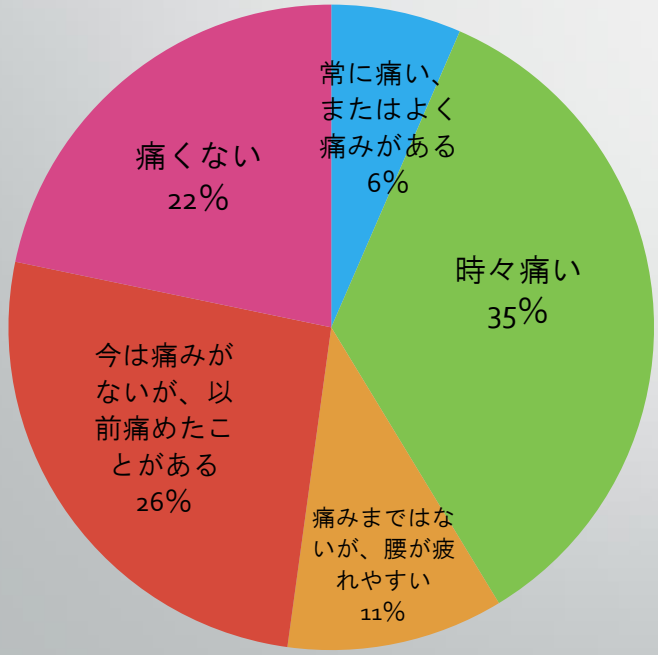
・2人介助で行っていた移乗が1人で行うことができるようになり、介助者の負担も減った。

７、具体的な変化(職員)

【腰痛調査の比較】

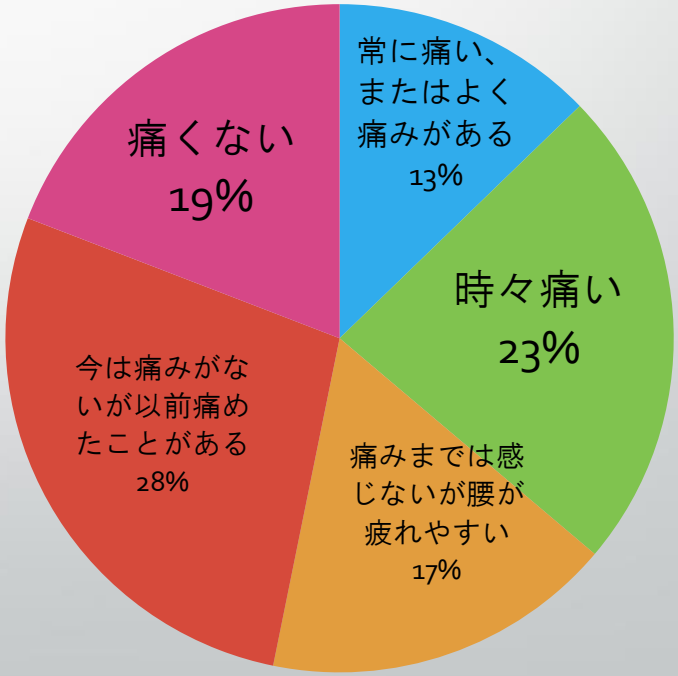
第１回腰痛調査(２０２０年３月)

腰痛はありますか



第２回腰痛調査(２０２０年１０月)

腰痛はありますか？



７、具体的な変化(職員)

良い変化

・職員から体が楽になった、移乗が楽になったとの声が挙がった。

・ノーリフティング以外に関しても、こうしたらいいのではないかなど、施設に関して様々な意見が出てくるようになった。

・介護の各部会にて、ノーリフティングに関する研修を発案、作成など、施設にノーリフティングが浸透してきている。

課題点

・取り組みに対して、職員間、職種間に温度差がある。

・ケアの変更が進んでいるユニットとそうでないユニットがある。

・研修内容の現場への反映が不足

・福祉用具の不足

（電動ベッド、跳ね上げ式車いす等）

○今後の課題

・他職種を巻き込み、「ノーリフティングケア」がより施設にとって当たり前になるように、取り組みを習慣化させ、定着させていく。

・アセスメントはされていても、ケアの変更がまだ進んでいない為、順次、進めていく。

(スライディングシートの活用等)

・福祉機器、用具の充実

・現場でのノーリフティングケアの確認体制と指導体制の確立

ご静聴ありがとうございました！
柏友会
桑寿園